

旅行取扱状況の概観（平成27年6月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比74.7%、学生団体は同83.1%と前年を下回り、団体旅行合計で同75.8%と前年を下回った。企画旅行については同94.1%、個人旅行についても前年比78.6%と前年を下回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比84.7%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比106.5%、学生団体は同105.2%と前年を上回り、団体旅行合計で同105.7%と前年を上回った。企画旅行については同100.0%と前年並み、個人旅行については同101.3%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、102.5%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比99.9%と前年並みであった。

以上の結果、ホールディングス主要会社の6月の総取扱額は前年比96.5%となり、前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は前年に大型の観光旅行やコンベンションを取り扱った影響や、取扱い団体本数の減少に伴い前年比73.8%と前年を下回った。学生団体は研修旅行の取扱いは前年を大きく上回ったが、前年に大型の修学旅行を取り扱った影響により同83.1%と前年を下回った。この結果、海外団体旅行合計で同75.0%と前年を下回った。国内団体については、一般団体は大型の企業系コンベンションや職場旅行の取扱い団体本数の増加に伴い、前年比106.2%と大きく上回った。学生団体は修学旅行の取扱い団体本数の増加に伴い前年比105.3%と上回り、国内団体旅行合計で前年比105.5%と大きく上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比99.7%と前年をやや下回った。方面別取扱人数の状況では、北陸新幹線の影響もあり、北陸、信州方面が好調であったことに加え、関西、南紀、中国四国、九州方面が好調を維持している。

ホリデイは、取扱額で前年比90.1%と前年を下回ったが、方面別取扱人数の状況では、ハワイが前年並み、ミクロネシアが大幅に前年を超えた。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、イスラム国やエボラ出血熱など、様々な外的要因の影響を受け全体的に取扱高が伸び悩み、取扱額で前年比95.1%と前年を下回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、北陸や善光寺の御開帳など話題の観光素材を活かした商品が引き続き好調であり、同111.6%と前年を大きく上回った。

バス旅行部門は、浅間山や箱根山噴火警戒の影響など外的要因の影響を大きく受け、同86.1%と前年を下回った。

テーマ旅行部門は、戦国時代の史跡やお城等をめぐる歴史の旅、また名阪において登山やハイキングの旅が好調で、同101.1%と前年を上回った。